

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 現状

近年の少子化の影響や進学先の多様化により、江津地域における現状の県立高校の配置では、望ましい教育環境を将来にわたって維持することが難しくなっており、抜本的対応と教育のさらなる質の向上が必要

(1) 江津高校と江津工業高校の入学者数等

高校	年度	H31	R2	R3	R4	R5	5年平均
江津高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数	72	55	57	60	66	62
	定員充足率	90.0%	68.7%	71.2%	75.0%	82.5%	77.5%
江津工業高校	定員	80	80	80	80	80	80
	入学者数	50	55	49	41	45	48
	定員充足率	62.5%	68.7%	61.2%	51.2%	56.2%	60.0%

(2) 江津市内中学校卒業生数推移

卒業年月	R3.3	R4.3	R5.3	...	R8.3	...	R14.3
中学校卒業生数	190	190	180	...	148	...	140
R5.3比	+10	+10	—	...	△32	...	△40

※ R8.3とR14.3の卒業生数は、令和5年5月1日現在の小中学校在籍者数より推計

(3) 江津市内中学校卒業生のうち高校（全日制）進学者の内訳

年度		R3	R4	R5	...	R8
江津高校		47 (+市外10)	46 (+市外14)	45 (+市外21)	...	35 (+市外11)
江津工業高校		20 (+市外29)	20 (+市外21)	20 (+市外25)	...	15 (+市外33)
私立高校 及びその他 地域	浜田市内県立	40	34	26	...	93
	江津市内私立	36	36	37		
	その他県内	27	33	23		
	県外	6	8	11		
計		176	177	162	...	143

※ R8の進学者は、令和4年度までの入学者数により推計

2 基本的な方針（案）

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 1 学年 2 学級の江津高校と江津工業高校を統合し、新たに 1 学年 3 学級の高校を設置
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和 10 年度前後を想定

<新設校のイメージ>

想定される学び		1 学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文系進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざした進学コース 	1 学級	2 学科 3 学級
工業教育の更なる魅力化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ ロボット制御系 ・ 建築系 ・ 電気系 	2 学級	

学校関係者説明会および当日アンケートの主な質問項目に対する回答

【教育内容について】

Q 望ましい教育環境とは何か？

A 江津地域の子どもたちの選択肢を確保した上で、充実した高校教育を提供し、卒業後の進路に繋げていくことが最も重要であると考えております。そのためには、1学年50～60人規模の学校では充分とはいえない多様な学びのニーズへの対応や、学校行事や生徒会活動、部活動の充実などが、1学年100～120人規模となることで、より切磋琢磨できる教育環境を確保できたり、多様な関係性の中でコミュニケーション能力やリーダーシップを身に付けたりすることにつながると考えます。

Q 普通科系の学びの想定において、看護・栄養・保育といった具体的な資格職が示されているのはなぜか？ また、文系進学が想定されているのに、理系進学の記載がない。理系の学びも必要ではないか？

A 想定される学びの主なものとして、文系進学と資格職をめざした進学の2コースを挙げています。ここ数年間の江津高校卒業生の進路先として、主に文系進学と資格職を目指した進学があり、新設校でも普通科系の学びとしてこの2つのコースが必要であると考えました。今後、詳細な教育課程の検討をしていく際に、理系希望者の進学状況も分析しながら、理系の学びについて考えていくこととなります。

Q 工業科と普通科系が統合することのメリットは？

A コンソーシアムを中心とした高校と地域との連携・交流がさらに深まること。また、工業科と普通科の学びの融合によって、部活動や学校行事の活性化だけにとどまらない相乗効果が生まれることを期待しています。詳細の教育課程や特色ある教育活動については、基本的な方針を決定した後の検討となりますが、例えば、普通科生徒にとっては実習や就職準備に取り組む工業科生徒の姿を通して新たな地域社会に貢献する視点が芽生えること。また、工業科の生徒にとっては、進学を目指す普通科の生徒から刺激を受け、就職以外にも県内の大学進学を目指す意欲が高まることなども期待しています。

Q 詳細な部分を検討する場合にも、地域の意見も丁寧に聞き取ってほしい。
工業教育では、プログラミングを学習の中心に据えるなど他の工業高校と差別化を図るべき。

A 教育課程や特色ある教育活動、部活動などの詳細は、基本的な方針を決めた後に検討することになります。その際は、県教育委員会だけで検討するのではなく、コンソーシアム、地域の方のご意見も伺いながら検討していくことになると思っています。

Q 地域人材を育成する観点から、工業系の学びにポリテクカレッジとの授業連携を取り入れることで5年間の教育コースを設定し、地域で活躍できる子どもを育てることも検討してほしい。島根県立大学や島根大学の附属学科のような位置づけとすることも検討してほしい。

A 連携・協働を期待する教育機関として、島根大学や島根県立大学、ポリテクカレッジなどがあります。地域資源を活用した特色ある教育課程を構築することは「県立高校魅力化ビジョン」でも大切にしているところであります。基本的な方針が定まった後、詳細な教育課程などを検討する際には、普通科系と工業系のそれぞれに、こうした機関との連携・協働による特色ある教育活動についても取り入れてまいります。

意見・要望

- ・建築系の仕事では土木技術者が足りていないため、土木科が必要と考える。
- ・工業系のカリキュラム(特に情報系科目)を設定し、新設校の強みにしてほしい。
- ・探究に力を入れてダイナミックなカリキュラムを編成して、子どもたちが主体的に学び、自信をもって社会に出るような学びができると面白いと思う。
- ・理系進学を希望した場合に、私立か市外に進学せざるを得ないのは、理系教育が捨て置かれたという感覚がある。地元で学び続けられる環境がほしい。

【学校活動について】

Q 2030 国スポに向けての強化育成は始まっている。このタイミングでの在り方検討には疑問。

A 県立高校の在り方検討は「県立高校魅力化ビジョン」にもとづいて、地域の中学校等卒業生数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討する時期がきたことによるものです。国スポの選手強化は、新設校の議論に関わらず進めていきます。

→Q 統合の新聞記事によって江津高校に入学して部活動に専念することを希望していた県外の中3生からもう志願変更するしかないとの話がきた。

A 是非その生徒の誤解を解いていただきたいと思います。現在の中3生にとって、今後の高校3年間の教育環境は現状と変化はありません。

→Q 統合されると部活動はどうなるのか？

A 部活動の具体的な在り方は、基本的な方向性を決めた後、しっかりと時間をかけて検討します。現時点で、統合によりどこかの部活動を廃部にするということは考えていません。

→Q 統合されると部活動の練習場所が不便になるのではないか。

A 部活動の活動場所については引き続き、江津高校のグラウンドやプール、体育館を活用することを考えています。もちろん一般の施設利用もあり得ます。

Q 令和2年度に江津市と県立3校でコンソーシアムを設置し、魅力化を進めてきた。江津高校についても、その成果が出はじめているところ。これからの成果を見てほしい。

A 「県立学校 GO▶GOTSU コンソーシアム」では、江津高校における「GOTSU ミニトークフェス」「GOTSU ヒトコトモノツアー」「GOTSU ビトインタビュー」などのインプットのための事業や地域課題解決型学習、江津工業高校における「つながる」事業、「みがく」事業、「つたえる」事業などの取組をされており、その協働体制の構築や取組の推進に対しては、心より感謝申し上げます。

コンソーシアムの活動は、是非、新設校においても引き継いでいただき、地域と高校とが協働して、江津地域の子どもたちの学びの充実を実現していただきたいと考えています。

意見・要望

- ・特徴のある教育活動で魅力化をし、市外・県外から生徒が入学してくる学校にしてほしい。
- ・部活動の勧誘等のためにも、統合後の細かい部分まで早く決めてほしい。
- ・各高校の部活動の魅力も引き継いで活かしてほしい。
- ・全国の統合校を研究して、魅力的な高校をつくってほしい。

【学校規模について】

Q 普通科系1学級、工業系2学級とした理由は？ 普通科系が2学級ではないのか？

A 江津地域における普通科系の学びと県西部における工業教育として、普通科系の進学を念頭に置いた2コースと、工業教育は教育内容の幅が広いため4コースを想定しています。あわせて6コース各20人の120人を想定しています。このため普通科系1学級、工業系2学級としております。

- 開校を目指すR10年度前後の推計値において、江津市内から江津高校への進学者数は1学級40人程度です。年々によって流動的な市外からの進学者を含めても50人程度であり、2校あわせても100人程度と予測されます。
- R10年度以降においては、さらなる減少が見込まれます。

→Q 江津高校の将来推計値は、どのように出されたものか？

A 過去5年間の県内すべての中学校等について、卒業した生徒のうち江津高校へ入学した割合から今後の見込み係数を算出し、その係数を各中学校等の卒業見込み生徒数に掛けた数値を合計して推計値としています。

→Q 江津高校は市外生を増やし、充足率も増加傾向にある。これを考慮し普通科系を2学級としてほしい。

A 特色ある教育課程や魅力的な教育活動を検討し、市内の中학생に選ばれる高校となることで、市外からの入学希望も呼び込むことを期待しています。江津高校が地域と連携して行っている特色ある教育活動の成果として、中学校等卒業者の進路状況が変化し、新設校で普通科系の学びを希望する子どもたちがさらに増えてくれば、開校にあたりクラス増もあり得ます。

意見・要望

- ・2校対等の統合であることを示すため、また、女子生徒の受け皿として普通科系2学級、工業系2学級が必要である

【手続き等について】

Q 平成31年2月に策定された「県立高校魅力化ビジョン」は地域と一体となった魅力化推進をうたっていたが、統合再編に舵を切るということは、このビジョンは無効となったのか？

A ビジョンは令和元年度から10年度までの10年間の方針であり、現在も有効です。ビジョンの中でも別枠で記述されている江津・浜田地域について、地域における高校・学科の在り方や配置について検討する時期がきたと考えています。

→Q なぜ江津地域だけ検討に入るのか、浜田地域や他地域は検討しないのか？

A 江津地域の生徒数の減少が顕著であり、浜田地域は減少が緩やかとなっているため江津地域を検討することとしました。また、他地域においても生徒数の減少は見られますが、中山間地域では進路保障の観点から現状を維持することとし、他の市部では学級減で対応しています。

→Q ビジョンには、石見部全体で議論すべきとあったが、なぜ江津地域だけの検討なのか？ 江津市内だけで統廃合しなくても良いのではないのか？

A 石見部において工業教育は、江津工業と益田翔陽がありますが、浜田市にはありません。普通科系教育は大田・江津・浜田・益田にあります。さらに中学校等卒業生数の減少は浜田地域よりも江津地域が顕著です。これらのことを総合的に踏まえた検討となっています。

→Q 平成30年までの再編成基本計画にあった「定員の5分の3を切ったら統廃合の検討」というような基準は今もあるのか？

A 「県立高校魅力化ビジョン」に統廃合基準はありません。地域の中学校等卒業生数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討することになります。

Q 8月に予定されている総合教育審議会のメンバーに石見のことを理解している委員に入ってほしい。石見部の状況を理解したうえで議論してほしい。

A 審議会委員の選任にあたっては、専門性や地域バランスを考慮しています。8月の審議会においては委員の皆様に対して、検討に至った経緯及び学校関係者説明会や地域説明会でいただいたご意見などをきちんと説明し、十分に議論ができるよう努めてまいります。

Q 検討を重ねた結果、統廃合が白紙撤回されることはあるのか？

A このたび今後の在り方の検討を始めるにあたり、設置者としての責任として、基本的な方針案をお示しました。今後も、そういったご意見も含めて、様々な視点からのご意見をいただき、検討を重ねていきたいと考えております。

Q 例えば、統合校が令和 10 年度に開校された場合、令和9年度に江津高校及び江津工業高校に入学した生徒はどういった扱いになるのか？

A 基本的な方針が定まった後、詳細について検討を重ねることになりますが、過去の統合校の例では、入学した高校で卒業しています。つまり、最後の年は下級生のいない形で卒業式・閉校式を行っています。

意見・要望

- ・7月15日の地域説明会は、できるだけ多くの方が参加できるようにしてほしい。
- ・R10年度までの細かなロードマップを示してほしい。
- ・保護者にとっては、方向性を早く示してもらうほうが安心できる。
- ・進捗状況を細かく伝えてほしい。
- ・統合校の開校までの間、入学希望者が減少したり、入学した生徒が不安になったりすると思われる。提案のあった基本的な方針案により早期に実現してほしい。
- ・県教委の中で議論を留めることなく、地域のアイデアを取り込む形にしてほしい。
- ・地元や大学、企業などからも声を聞いてほしい。
- ・早く方針を固め、具体的な計画をしてほしい。
- ・プロジェクトチームをつかって統合まで同じメンバーで取り組む方法は考えられないか。
- ・小中学生に行きたい高校アンケートを取っても良いのではないか。

【その他】

Q 江津市への説明で、市の考え方はどうだったのか？

A 江津市からは、地元の意見をしっかりと聴いて丁寧に進めてほしいということと、何よりも江津地域の子どもたちの教育を最優先に考えて検討してほしい旨のご意見をいただきました。

Q 学校関係者説明や地域説明よりも先にマスコミ報道があり、結論ありきを感じる。県教委に対して不信感を抱いている。

A 県立高校の在り方については、知事から6月議会の施政方針で検討をはじめている旨を公表するとともに、県民の代表である県議会議員からの一般質問に対し、基本的な方針案を説明させていただきました。これは、地域の一部の方が参加される地域説明会の後、口伝えによる憶測も含めた不確かな情報が広がることによる混乱を避けるためでもありました。

現在、学校関係者説明や地域説明会でご意見をいただく手順として進めています。今後、様々な視点からのご意見をいただきながら検討を重ねてまいります。また、7月中には県教育委員会のホームページに専用のページを作成し、随時、確実な情報発信をしていきます。

Q 江津工業高校の校名は残してほしい。校名が変わると、校歌も応援歌も変わるようになる。

A 校名や校歌の検討は、基本的な方針を決めた後、決定までのスケジュール等も含めて検討することになります。過去の統合校の例では、校名は公募で決めています。

Q 新設校の開校まで責任をもって検討していく専門人材をつけてほしい。

A 専門人材の配置ができるかはわかりませんが、県教育委員会として責任をもって検討を重ねていけるよう、少なくとも人事異動があった場合には、担当部署においてしっかりと引継ぎ体制を整えて業務にあたってまいります。

Q 数年かけて議論すべき。江津市のサポートがあれば市外・県外から生徒募集できるはずなので、あと数年、時間をいただきたい。時期尚早ではないか。

A 県立高校の在り方検討は「県立高校魅力化ビジョン」にもとづいて、地域の中学校等卒業生数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討する時期がきたことによるものです。

中学校等卒業生数の減少は、県内他地域においても同じような傾向にあるため、市外からの入学者数が、今後大きく増加することは難しいと考えています。

また、県外からの入学者数は、江津高校が5年間で10人（年平均2人）、江津工業高校が5年間で4人（年平均1人）であることから、県外からの入学者数が、今後大きく増加する見通しを持っておりません。

5年後、10年後を見通したとき、一定の学校規模を維持したうえで、地域と協働した両校の特色ある教育活動を継承・発展・融合させ、将来にわたって地域の子どもたちにとって魅力あふれる教育環境を構築するために、検討をはじめることとしたところであります。

意見・要望

- ・少人数の教育にも良さがある。この良さを生かすため江津高校を維持してほしい。
- ・進学を希望する女子生徒の受け皿が必要。普通科系を2学級とすることと、女子寮をつくってほしい。
- ・女子寮は不要、現実的ではない。
- ・中学校における進路指導の中で、専門高校の進路に関する説明が十分にはされていない。江津工業高校卒業生の就職状況など良さが伝わっていない。